

一般社団法人日本コンピュータシステム販売店協会ニュース

JCSSA NEWS

Vol.
58
2011 Spring

特 集

新春特別セミナー・ 賀詞交歓会 開催！

会長の声 2

社団法人から一般社団法人へ

特集 3

新春特別セミナー・賀詞交歓会 開催！

- ・ 太陽系大公開時代の幕開け ～「はやぶさ」を継ぐもの～
(新春特別セミナー)
- ・ 2011年 我が社の製品・販売戦略
- ・ 新年賀詞交歓会

一般社団法人移行のお知らせ 6

新役員のご紹介

トレンドスコープ 8

遂に動き出したLTE,
LTEでビジネスがどう変わるのか？

レポート 9

サポートサービス委員会
交流促進委員会

「オンキヨーが切り拓く『スレート型PC
(Windows・Android)』の新市場」

新会員のご紹介 11

事務局だより 16



一般社団法人
日本コンピュータシステム販売店協会
大塚 裕司 会長



会長の声

社団法人から 一般社団法人へ

この度の東北地方太平洋沖地震により被災されました方々、また会員の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を祈念するとともに、できる限りの支援活動をさせていただく所存です。今回は、地震、津波、原発事故と三重の災害となっており、その影響はわれわれの業界に計り知れないほど広く及んでおります。

原発事故の起きる前から、節電は大きな課題となっていました。われわれもこの機会にこまめに電気を消す、空調の温度を下げる等の節電対策を、業界をあげて実施していく必要があります。また、企業においては節電につながる古い機械の買い替えも検討すべきでしょう。2005年から2006年ごろ発売された機械を現在のものに買い替えた場合、消費電力は10分の1以下になると言われています。

また別の話題では、今年2月にグローバルでIPアドレス資源を管理しているIANA (Internet Assigned Numbers Authority) のIPv4の「中央在庫」がなくなり、いよいよIPv6への移行に世界が動き出そうとしています。このような大きなうねりの中で、中小企業はますます、これから先の変化に対応できるIT機器を求めていくと思います。今こそ、ITの力で日本を元気に復興していく手伝いを、われわれが先頭に立つて行う時ではないでしょうか。

当協会は、4月1日より「非営利型一般社団法人」へ移行いたしました。「社団法人」として最後の賀詞交歓会には多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。これからも、ITを活用するお客様に一番近い位置にいる販売店の団体として、利用者の目線に立ち、IT業界の発展を通じて、皆様のお役に立てるよう努力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

太陽系大航海時代の幕明け
～「はやぶさ」を継ぐもの～

2010年6月13日、7年間、60億キロにも及ぶ長い旅をして地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」。はやぶさが持ち帰った小惑星「イトカワ」の微粒子は、46億年前の太陽系誕生の当時を知る貴重な鍵となる。今回の新春特別セミナーでは、日本電気航空宇宙システム株式会社で長年にわたり、太陽系探査に携わってきた小笠原雅弘氏をお招きし、はやぶさの旅を振り返るとともに、これからの壮大な宇宙への挑戦について講演いただいた。

特集

新春特別セミナー・賀詞交歓会開催！

2011年1月17日(月)、JCSSA主催の新春特別セミナー・賀詞交歓会が開催された。

例年同様、多くの会員企業の皆様にご参加いただき、新年の幕開けにふさわしい充実したイベントとなった。

新春特別セミナー

太陽系大航海時代の幕明け ～「はやぶさ」を継ぐもの～

2010年6月13日。7年間、60億キロにも及ぶ長い旅をして地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」。はやぶさが持ち帰った小惑星「イトカワ」の微粒子は、46億年前の太陽系誕生の当時を知る貴重な鍵となる。今回の新春特別セミナーでは、日本電気航空宇宙システム株式会社で長年にわたり、太陽系探査に携わってきた小笠原雅弘氏をお招きし、はやぶさの旅を振り返るとともに、これからの壮大な宇宙への挑戦について講演いただいた。



小笠原 雅弘氏

日本電気航空宇宙システム株式会社 宇宙・情報システム事業部 シニアエキスパート

1982年日本電気航空宇宙システム株式会社に入社。1985年、ハレー彗星探査機「さきがけ」「すいせい」を太陽系の軌道に送り、スイングバイ技術を修得した「ひてん」では惑星探査機の軌道制御のもとをつくった。日本の太陽系探査における数々のプロジェクトに参加してきたエンジニア。「はやぶさ」のプロジェクトでは、イトカワへの着陸に使われたターゲットマークやフラッシュランプを手掛けるとともに、軌道姿勢系部門の長としてチームをまとめた。

小さな探査機が 7年60億キロの旅を成し遂げた

まず小笠原氏は、日本の宇宙開発のはじまりから話し始めた。「日本の宇宙開発、ロケット開発は、今から55年前に糸川英夫さんという人が始めました。糸川さんは戦時中に、戦闘機の開発に携わっており、その戦闘機が『隼(はやぶさ)』です。戦後、糸川さんはロケット開発を始めます。初めてつくったのが長さ20センチほどの小さな小さなロケットでした。そして今回お話しする小惑星探査機『はやぶさ』を打ち上げたM-V

ロケットはその子孫にあたるわけです。

はやぶさの本体は幅1.1メートル、長さ1.6メートル。そんな小さな探査機がどのように7年60億キロもの旅をして、地球に帰ったのか。その道のりを小笠原氏は語った。

小惑星へのタッチダウン＆ゴー 日本の技術が結実した瞬間

2003年5月に打ち上げられたはやぶさは、地球に近い軌道をたどり、約一年後の2004年5月に再び地球の3,700キロ上空に戻ってきた。これは太陽の周りを回る地球の運動エネルギーを利用し、はやぶさの速

度を増加させるため、この方法を「スイングバイ」と呼ぶ。「スイングバイすることで、秒速4キロ、時速にして1万キロ以上、はやぶさの速度が増します。加速をすると軌道が大きくなり、小惑星『イトカワ』の軌道に近づく。こうして、はやぶさはイオンエンジンを吹きながらイトカワに向かいました。

2005年9月12日、はやぶさはイトカワ近傍に到着する。「小惑星『イトカワ』は先に紹介した日本の固体ロケットのもとをつくった糸川さんの名前に由来します。長さはわずか約540メートル、12時間で時計回りに一周する天体です。初めてイトカワを目

にした私たちは、驚きと不安を感じました。岩石が一面イトカワの表面を覆っていたのです。どこにははやぶさを降ろせばよいのか…。しかし、幸運にも一部分に比較的平坦な場所を見つけ出すことができました」。

はやぶさの本体下部には「サンプラーホーン」と呼ばれるサンプル採取機器が付いている。ホーンの先端がイトカワの表面に触れた瞬間に探査機内部から球を打ち出し、はね返ってきた砂粒を集める仕組みだ。

「表面にタッチダウンする時間は約1秒。タッチダウン後、逆噴射をしてすぐに地面から離れます。タッチダウン＆ゴー。この方法で2回試みました。2005年11月26日午前7時7分、はやぶさはイトカワの表面にタッチダウンに成功します。地球からイトカワの距離は3億キロもあります。地球から電波で指令を出して、はやぶさに届くまでに16分、はやぶさから返答を得るまでにまた16分かかります。そのような状況で、はやぶさはタッチダウン＆ゴー、そしてサンプル採取をやったのけた。1969年のアポロ11号が月への有人飛行を成功させて以来、月以外の天体に降りてサンプルを持ち帰ることができたのは、はやぶさだけです」。しかし、その快挙を成し遂げるまでに、はやぶさは大きな困難に見舞われることになる。

たび重なるはやぶさの危機 救ったのは、チームの結束力

「イトカワからの離陸後、はやぶさは燃料漏れを起こします。姿勢が大きく変動して、アンテナが地球を向かなくなってしまった。その後太陽電池に光が当たらないという致命的な状態に陥ってしまったのです」。

運用担当者が「応答せよ」という指令を毎日出し続けるものの、はやぶさからの返答はない。「すでははやぶさが働かなくなっている可能性もありました。7週間後、はやぶさからのわずかな電波をキャッチします。一つ一つ状況を解きほぐしていき、はやぶさを復帰させるまでに約一年もの時間を費やすことに…。当初2007年に地球に帰還予

定でしたが、もう間に合いません。2010年の帰還に計画が変更となりました」。

しかしその後、はやぶさはさらなる問題に直面する。エンジンが止まってしまったのだ。「はやぶさにはイオンエンジンを4基搭載していました。でも、そのころには3基が不調や寿命が尽きたことで、たったの1基で運転を続けていました。ところが、その1基のエンジンも寿命が尽きてしまった…。プロジェクトメンバー全員がはやぶさはもう帰って来れないと思いました」。



このとき奇策がプロジェクトメンバーに伝えられる。イオンエンジン2基の回路をつないで1基のエンジンを動かすというのだ。「驚きましたね。そんな試験を一度もしたことがない。それもそのはずで、それははやぶさの最後の製作段階で、万一のことを思って組み付けられた回路だったのです。NECのイオンエンジンの担当者はずいぶん悩みました。メーカーとしては試験をした後に、無事であることを確認してから使うべき。JAXAからの『やってみよう』という提案には二の足を踏みました。しかし、20年の歳月をかけ、学生時代から共にエンジンをつくり上げたJAXAの技術者の説得についに同意したのです」。

その結果、エンジンは再稼働し、はやぶさは最後の旅を続けることができるようになった。はやぶさはイオンエンジンの累積運用時間が4万時間にも達する世界一のイオンエンジンの運転を成し遂げることになる。2010年6月13日、ついに帰還の時がやってくる。「帰還直前に、はやぶさ本体とイトカワのサンプルが入ったカプセルを分離させます。その後、はやぶさ本体とカプセルが地球に飛び込みます。大気との摩擦で発生す

る3千度の熱に耐え、カプセルだけが地球に戻りました。はやぶさ本体は当初、他の目標に向かわせる計画を立てていたのですが、燃料が残っておらず、大気の中で燃え尽きる運命をたどるしかなくなったのです」。

ヒートシールドに守られて地球に戻ったカプセルは新品のようにきれいで周囲を驚かせた。その後、カプセルには確かにイトカワの砂粒が入っていることが判明し、ようやくはやぶさのプロジェクトは終わりを告げた。はやぶさが持ち帰ったイトカワのサンプルは、太陽系46億光年の歴史をひもとく鍵となる。イトカワへのタッチダウン、優れた燃費を誇るイオンエンジン、カプセル技術などの結集が、この大きな成果につながったのは言うまでもない。しかし、はやぶさが地球に戻ることができた一番の要因は、チーム一人一人の力だと小笠原氏は語る。

「プロジェクトにかかわった企業は約100社。その企業の社員の皆さんがJAXAの技術者たちと一体となったことで、はやぶさを地球に帰すことができた。これは今後残したい大きな教訓でもあります」。

太陽系大航海時代の幕開け 加速する日本の宇宙開発

小笠原氏は、はやぶさに続く「イカロス」や「あかつき」など、次の太陽系探査機の紹介を行った。次々に始まる宇宙への探索を、小笠原氏は「太陽系の大航海時代が到来した」と表現する。2014年には「はやぶさ2」が新たな使命を帯びて打ち上げられるという。小惑星に穴を開けて、その穴の底にある物質を持ち帰るそうだ。「はやぶさ2の成果を期待して待っていてください。2020年代にはさらに木星周辺までも踏み出す計画もあります」と今後の構想を小笠原氏は熱く語った。

「はやぶさの話を多くの人に伝えてほしい」と講演の最後に小笠原氏は聴講者の皆さんにお願いした。地球に戻ってきたはやぶさの流れ星がきらめいた瞬間が画面に映し出され、1時間に及ぶ講演は終了した。

【2011年 我が社の製品・販売戦略】

新春特別セミナーに引き続き、ハードベンダー 6 社に 2011 年の製品・販売戦略をご紹介いただいた。



ソニーマーケティング株式会社からは執行役員 IT ビジネス部門長 松原昭博氏が出席。PC を中心とした新しいソリューション展開について、ビデオ会議における IP コミュニケーションの活用や、SMB の IT マネジメント負担軽減への取組事例を紹介いただいた。



株式会社東芝からは執行役員 常務 デジタルプロダクツ&ネットワーク社長 深井方彦氏が出席。昨年にノート PC 発売 25 周年を迎え、さらなる飛躍を目指す今年の意気込みを語っていただいた。ノート PC にとどまらない、クライアント端末での多様化する課題の解決に向けた動きを解説いただいた。



レノボ・ジャパン株式会社からは常務執行役員 留目真伸氏が出席。イノベーションやオペレーション効率など昨年の世界、日本市場での飛躍を生む力となった成長の秘訣を紹介いただいた。また今年新製品、新テクノロジーを通じてあらためてパートナーとの戦略共有について展望が述べられた。



日本電気株式会社からは取締役執行役員 常務 國尾武光氏が出席。NEC グループビジョン 2017 を掲げ、NEC がイノベーションによって実現を目指す「人と地球にやさしい情報社会」について解説いただいた。さらに実現のためのキーワード「C & C クラウド」「環境」への取り組みを紹介いただいた。



日本ヒューレット・パッカード株式会社からは執行役員 パートナー営業統括本部 コマーシャル営業本部長 那須一則氏が出席。市場変化、ニーズに対し、hp 製品のフルポートフォリオを駆使した取り組み、年度末商戦に向けた販売支援方針について解説いただいた。



富士通株式会社からは執行役員 パーソナルビジネス本部長 齋藤邦彰氏が出席。より人間的な価値実現に向けて活用される、富士通の ICT について解説いただいた。また、富士通の強みである総合力、Made in Japan の良さを活かした新価値創造への取り組みを紹介いただいた。

新年賀詞交歓会

新春特別セミナーに引き続き行われた新年賀詞交歓会には多くの皆様にご参加いただき、活発な交流が図られた。冒頭、JCSSA 大塚裕司会長からの挨拶の後には、4 月 1 日の一般社団法人移行時をもって理事を退任される方たちに感謝状が贈られた。また新規会員の皆様の紹介後には、来賓の経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課長 東條吉朗氏、日本電気株式会社 代表取締役 執行役員社長 遠藤信博氏からご挨拶をいただいた。ご挨拶と乾杯のご発声は社団法人コンピュータソフトウェア協会 会長 和田成史氏にお願いした。中締めのご挨拶は、ソフトバンク BB 株式会社 執行役員 コマース&サービス統括 CP 事業推進本部長で JCSSA 常任理事の高瀬正一氏から頂戴した。



JCSSA 会長 大塚裕司氏



経済産業省 商務情報政策局
情報処理振興課長
東條吉朗氏



日本電気株式会社
代表取締役 執行役員社長
遠藤信博氏



社団法人コンピュータソフト
ウェア協会 会長 和田成史氏



JCSSA 常任理事 高瀬正一氏

一般社団法人日本コンピュータシステム 販売店協会が発足いたしました。

活動目的

本協会はコンピュータシステム販売企業の技術の向上と利用者の利便性を高め、
もってわが国の産業の健全な発展と国民生活の向上に寄与する。

理 念

IT を活用するお客様に一番近い位置にいる業界団体として利用者の目線に立ち、
IT の社会的普及と活用促進に向けて相互に協力し活動する。

方 針

- (1) IT の利活用の促進と社会的普及を行う
- (2) 業界トレンドの情報を収集し提供する
- (3) お客様の要望に関する調査活動を行う
- (4) 業界課題を協力して全体最適に解決する
- (5) 関連団体と連携し活動する
- (6) 会員のビジネスチャンスを拡大する
- (7) 会員のコミュニケーションを促進する

新役員のご紹介

2011 年 4 月 1 日に就任した、非営利型一般社団法人日本コンピュータシステム販売店協会の新役員をご紹介します。

※敬称略・順不同



会 長 大塚 裕司

株式会社大塚商会
代表取締役社長



副会長 香月 誠一

株式会社 JMC
代表取締役会長



副会長 金成 葉子

株式会社シー・シー・ダブル
代表取締役社長



副会長 林 宗治

株式会社ソフトクリエイト
代表取締役社長



専務理事 松波 道廣

一般社団法人日本コンピュータシステム販売店協会
専務理事



理 事 田中 啓一

日本事務器株式会社
代表取締役社長



理 事 鈴木 範夫

日興通信株式会社
代表取締役社長



理 事 吉岡 正臣

株式会社セイコーアイ・インフォテック
代表取締役 副社長



理 事 高瀬 正一

ソフトバンクBB株式会社
執行役員コマース&サービス統括
CP事業推進本部 本部長



理 事 安永 達哉

ダイワボウ情報システム株式会社
専務取締役



理 事 前川 和彦

NEC フィールディング株式会社
取締役執行役員常務



理 事 中込 裕

株式会社システムインナカゴミ
代表取締役社長



理 事 久野 武男

協立情報通信株式会社
常務取締役



理 事 藤島 聰行

株式会社富士通エフサス
代表取締役副社長



理 事 末澤 光一

東芝情報機器株式会社
代表取締役社長



理 事 小川 賢八郎

菱洋エレクトロ株式会社
代表取締役社長



理 事 青柳 勝栄

株式会社理経
代表取締役社長



理 事 関根 俊一

株式会社ハイパー
代表取締役会長



理 事 窪田 大介

リコージャパン株式会社
専務執行役員



理 事 小川 仁司

ディーアイエスソリューション株式会社
取締役社長



理 事 水津 英敏

株式会社システナ
IT マネジメント事業本部 部長



理 事 上西 祥久

株式会社BCN
取締役



理 事 大橋 太郎

株式会社電波新聞社
取締役



理 事 宗像 義恵

インテル株式会社
取締役副社長



理 事 市岡 進

リコーロジスティクス株式会社
代表取締役 社長執行役員



理 事 和田 成史

株式会社オービックビジネスコンサルタント
代表取締役社長



理 事 大三川 彰彦

トレンドマイクロ株式会社
取締役 日本地域担当



理 事 松本 圭祐

日本AMD株式会社
執行役員 営業担当



理 事 高橋 慎介

日本マイクロソフト株式会社
執行役員パートナービジネス営業統括本部長



監 事 金川 裕一

キューアンドエー株式会社
代表取締役社長



監 事 水谷 学

ビー・シー・エー株式会社
代表取締役社長



監 事 菅 義孝

菅義孝税理士事務所
税理士



トレンドスコープ

TREND SCOPE

遂に動き出したLTE, LTEでビジネスがどう変わるのか？

日経BP社 日経エレクトロニクス 副編集長

よもぎた
蓬田宏樹氏



最大数十Mビット/秒という
光ファイバー並
みのサービスを
可能にする、次

世代の高速移動通信規格「LTE (Long Term Evolution)」。高速化により様々な用途が考えられることから、携帯電話市場だけでなく、幅広い分野で端末メーカー、デバイス・メーカーにもビジネスチャンスが訪れようとしている。2011年2月16日、JCSSAでは日経エレクトロニクス 副編集長の蓬田宏樹氏を講師に迎え、LTEの基礎知識から最新動向までをお話いただいた。

モバイル・クラウド時代の到来

LTEは携帯電話や移動体データ通信の新規格。現行の第3世代携帯電話(3G)の周波数帯を使用しながら第4世代携帯電話(4G)の技術も取り入れており、4Gにより近いという意味で「3.9G」とも呼ばれている。特長は、最大データ伝送速度が現行サービスのおよそ10倍という高速性だ。NTTドコモが昨年12月に開始したLTEのデータ通信サービス『Xi (クロッシィ)』では、屋内で最大75Mビット/秒が可能だという。

「高速性に加えて、通信接続の遅延時間短縮もLTEのポイント。音声・データ通信ともにIPネットワーク上で実現で

きるため、遅延時間が非常に短くなります」と蓬田氏は話す。伝送遅延の解消はクラウドサービスとの連携を加速させ、企業ではシンクライアントのシステムをモバイル環境でもそのまま利用できるように。近い将来、屋内外にとらわれずいつでも高速の通信サービスが受けられる、いわゆる「モバイル・クラウド」時代に突入するのだ。

グローバル化×高速化で 市場を拡大

LTEの登場がもたらす一つの効果として、規格統一による市場の拡大がある。現在、3Gの規格はNTTドコモの「W-CDMA」とKDDIの「CSMA2000」に分かれているが、3.9Gでは両社含め世界各国がLTEに賛同。事実上の一本化が進んでいる。

「規格統一は日本のメーカーにとって大きなビジネスチャンス。LTE対応の端末を開発することで世界市場に参入できます。端末メーカーだけでなく、各種部品メーカーにとってもグローバル進出の機会になるでしょう」。

さらに、LTEの高速性は携帯電話業界を飛び越え、様々な業界から関心を集めている。「北米では既に自動車へのLTE搭載が進んでいる」と蓬田氏。自動車のカーナビや家電機器など、M2M (Machine to Machine) 市場において活躍が期待されているようだ。

「RFクライシス」を どう乗り切るか

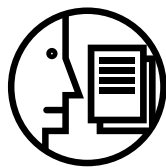
LTE最大の課題は、使用する周波数帯が世界で統一されていないこと。主に3Gの周波数帯(バンド)でサービスを開始するLTEだが、各地域で利用できるバンドが異なるため、「世界各地のLTEサービスに対応しようとする」と少なくとも7から9バンドは必要。複数のバンドに対応するには、RF回路(*)にそれだけ多くの部品を搭載しなければなりません。実装面積に限りがある以上、メーカーにとってはグローバル端末の小型化が課題となります」と蓬田氏は説明する。

RF回路の部品数が増えればコストと実装面積も増加する。この「RFクライシス」とも言える状況を乗り切るためのキーワードが「マルチバンド」である。多種類の周波数帯の送受信に対応させ、端末の小型化はもちろん、結果としてコスト減にもつながる技術だ。

「メーカーへの要求は厳しくなりますが、その分優れたマルチバンド対応の部品を作ればグローバルなシェアの獲得につながります。この逆境をチャンスだととらえている部品メーカーも多いでしょう」。

今後数年かけてじわじわと浸透していくLTE。メーカーにとっては腕の見せどころとなりそうだ。

※アンテナとの高周波信号のやりとりを行う部分のこと。
RFは「Radio Frequency (高周波)」の略。



サポートサービス委員会

▼ 活動状況

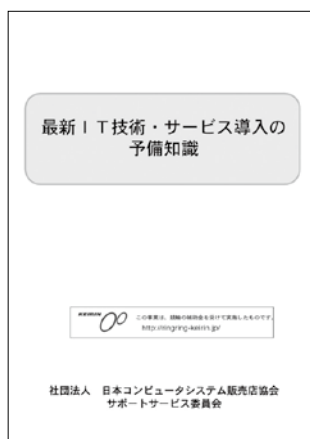
今年度は新規事業として「中堅・中小企業におけるIT活用実態と企業環境の変化に伴うIT化計画について」と題したテーマに関する調査研究を実施した。アンケート先は委員企業の顧客と商工会議所名簿などからリストアップを行い、836の企業に配布し、そのうち205社（回収率24.5%）から有効回答を得た。前年同様に報告書を補完すべく、導入時や運用時の工夫・苦労談を聞くためのヒアリング調査を実施。全国7企業の協力を得ることができた。

アンケートの回収率を向上させる手段として、今年度は会員各社からの協力を得てノベルティを用意し、アンケート回答企業に抽選で配布する方法を採用した。その結果、昨年度を上回ることはできなかったが、高い回収率を達成することができた。今後も報告書を充実させるために回収率向上策は必須であるため、さらなる工夫に努めたい。なお、この活動はその半額を財団法人JKAからの補助金により行っている。

▼ 委員会の活動成果（アンケート、解説書、調査報告書と比較位置づけ資料）

今年度の活動の成果は、「最新IT技術に関する簡単な解説付きアンケート票」「最新IT技術・サービス導入の予備知識と題する解説書」「取り組み実態を把握する調査報告書」「回答企業全体における自社の状況が分かる比較位置づけ資料」を作成し、配布・公表したことである。位置づけ資料以外の成果物については当協会のホームページよりダウンロードすることができるので、戦略立案や教育、提案時など、各種活動にご活用いただきたい。

位置づけ資料については、アンケートで「必要」とご回答いただいた企業に提供することになっているが、全体、同業種、同規模などでの比較を可能としているので、会員各社様も企業への提案時やコンサル時などに積極的に活用していただくことを期待したい。

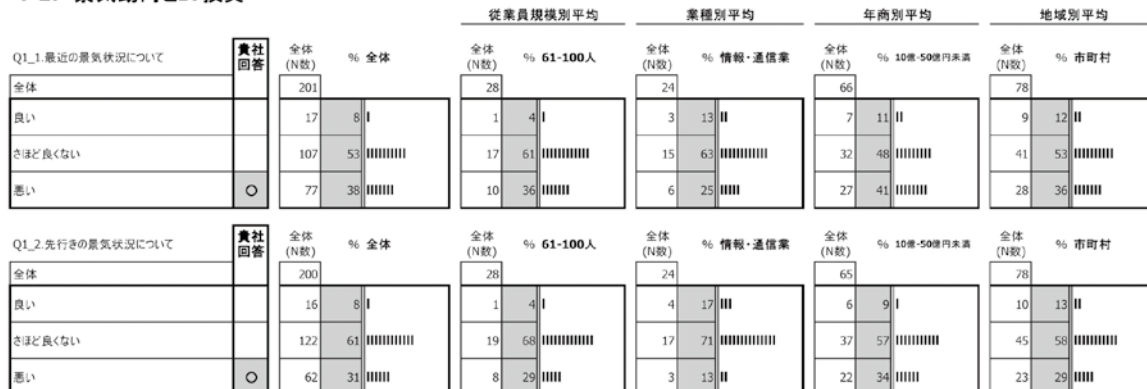


▲ 解説書（ページ数：104頁 A5）



▲ 調査研究報告書（ページ数：174頁 A4）

4-1. 景気動向とIT投資



▲ 比較位置づけ資料（例）



交流促進委員会

最新スレート型 PC 勉強会

オンキヨーが切り拓く「スレート型 PC (Windows・Android)」の新市場

オンキヨーデジタル
ソリューションズ株式会社
代表取締役社長

菅 正雄氏

アップル社の『iPad』を筆頭に、スレート型端末の人气が高まっている。交流促進委員会では、2011年1月20日に最新スレート型PCの勉強会を開催。昨年秋に国内メーカー初となるWindows版スレート型PCを発売し『ワールドビジネスサテライト』（テレビ東京系）でも紹介されたオンキヨー株式会社（以下、オンキヨー）を訪問し、商品戦略や今後の展望についてお話を伺った。

新市場を切り拓く、オンキヨーの商品戦略

2010年9月、オンキヨーは国内メーカー初となるWindows7搭載のスレート型PC(*)を発売した。スレート型PCそのものは新しい製品ではないが、菅氏は今回の新商品で「新市場を開拓する」と宣言する。

オンキヨーの商品戦略のポイントは3つ。①競争相手がいないか、いても少なく、かつ大きな市場を狙う。②競争相手が多くても弱い市場を狙う。③新規ユーザばかりを狙うのではなく、既存ユーザにも販売できるビジネスを目指す。「これまで、PCの機能をすべて受け継いだスレート型端末というのはほぼありませんでした。オンキヨーが踏み込むのは、まさにこの『PC市場』の中のスレートという分野。つまり、1,000万台規模のPC市場でありながら、まだ競争相手がいない状態。先程の戦略でいう①ですね。この新市場を率先して開拓していきます」。

次に、菅氏は1981年に発売された『IBM PC』から今日までのPC市場の経過に触れた。「デスクトップだけだったPC市場は、ノートブックという『形状(フォームファクター)』の登場で拡大しました。持ち運べるようになったことで、今まで使われなかった場所でPCが活躍するようになったのです。そして現在、スレートという新たな形状により、PC市場がさらに拡大しようとしています。これまで市場に定着しなかったスレート型端末ですが、『iPad』の登場により

現在その認知度は非常に高い。『iPad』が起爆剤となり、PC市場は2年以内に20%ほどの成長が期待できると思っています」。

従来のPC機能そのままに

外部メモリとの接続も可能なスレート型PC

オンキヨーが発売したスレート型PCは、PCのソフトウェアをそのまま使用できるのが特徴だ。PCでは当たり前だがこれまでのスレート型PCに搭載されてこなかった機能として、企業からの要望も高かったUSBなどの外部メモリと接続が可能になっている。仕様の異なる3機種を同時に発売した背景については、「スレート市場参入に対して当社が本気であることの表れ。1機種では本気であることが伝わりません。また、Windows7にマルチタッチ機能が標準装備されたことで、開発費の面でも発売を後押しするかたちになりました」と菅氏は語る。

様々な引き合いがある中、意外にも要望の声が多いのはプレゼンテーションツールとしての活用だという。「ノートブックPCの場合、お客様は他人の所有機器で資料を見せられていると感ずるようで、スレート型PCの方が自然と話に集中してもらえるそうです」と菅氏。他にも電子カルテや各種マニュアルなど、幅広い用途で活用されているという。

オンキヨーは今回のスレート型PC発売において、「オープン」をキーワードに挙げている。「既存の周辺機器やアプリケーションが使えるので、様々なベンダー企業の参入を歓迎しています。当社が目指すのは『ハードウェアのプラットフォーム』。特にAndroidはアプリケーションやドライバー等、専用のものが必要になります。こういった部分をパートナー企業と協業して、共にこの市場を切り拓いていきたい」と菅氏は今後の展望を語った。

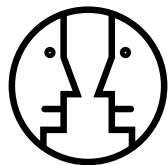
セミナー終了後は実機のデモンストレーションが行われ、多くの参加者がスレート上でのWindows7を体験。スレート型PC導入に対する能動的な姿勢が垣間見えた。



▲セミナー後のデモンストレーションの様子



※オンキヨーは『TW117A4』『TW217A5』『TW317A5』の3機種を発売。
予想実売価格は49,800円から。



新会員のご紹介

NEW MEMBERS

2011年3月現在

①所在地 ②会員代表者 ③設立 ④資本金 ⑤従業員数 ⑥入会年月

01

■ 正会員

株式会社 No.1

<http://www.number-1.co.jp/>

- ① 〒100-0011
東京都千代田区
内幸町 1-5-2
- ② 代表取締役社長
辰巳崇之
- ③ 1989年9月
- ④ 83百万円
- ⑤ 300名
- ⑥ 2010年12月

私たちは、平成元年にソフトウェア開発とOA機器販売の会社として横浜の地にて創業しました。現在はハード販売に加え、保守メンテナンス等オフィスにまつわる様々なサービスを取り扱っております。数人で創業し、様々なことがありましたが、おかげ様でお客様・お取引先様のご支援、そして従業員の頑張りにより第23期を迎えることができ、従業員300名、拠点数は東、名、阪、を中心に全国23拠点になりました。No.1という社名の通り、「情報通信産業におけるNo.1企業」を目指すとともに、お客様が求める商品・サービスは何かを考え、オフィスのトータルコーディネイトを実現できる「顧客満足度No.1企業」を目指しております。



株式会社 No.1

02

■ 賛助会員

オンキヨートレーディング株式会社

<http://www.otc.onkyo.com/>

- ① 〒682-0925
鳥取県倉吉市
秋喜243番地
- ② 代表取締役社長
志方亮三
- ③ 1986年5月
- ④ 300百万円
- ⑤ 190名
- ⑥ 2010年12月

当社は、PCおよびその他IT関連製品の企画・設計・製造を手掛けるオンキョーデジタルソリューションズ株式会社と、オーディオ・ビジュアル関連製品の企画・設計・製造を手掛けるオンキョーサウンド&ビジョン株式会社を主要取引先としています。当社の倉吉工場では、PC製品の生産工場、修理センター、カスタマーサポートセンターを設置し、生産から修理・お客様のサポートに至るまで一手に受け持っています。また、BTO-PCの個人・法人をはじめとした、多様なユーザーニーズへの提案・応対も行っています。東京事務所では、PC製品やオーディオ製品の法人向け販売やWebによる販売、映像機器・音響機器の開発・販売を行っています。

ONKYO®

03

■ 賛助会員

株式会社ビットアイル

<http://www.bit-isle.co.jp/>

- ① 〒105-0021
東京都港区東新橋
1-9-2
汐留住友ビル14F
- ② 代表取締役副社長
兼 COO
天野信之
- ③ 2000年6月
- ④ 2,724百万円
- ⑤ 187名
- ⑥ 2011年1月

株式会社ビットアイルは、東京都心特化型・大規模インターネットデータセンター（iDC）を展開する独立系データセンター専門事業者です。自社建設・運営のiDCを基盤に、インターネット接続サービス、システム監視・運用サービス、ハードウェアレンタルサービス、セキュリティサービス、そして『Cloud ISLE』ブランドで展開するクラウドコンピューティングサービス等のきめ細かなサービスにより、お客様のビジネス、IT活用に最適なインフラの構築・運用をワンストップでサポートします。エンジニアリングサービス、各種プラットフォームサービスを提供するグループ会社と一体となり「総合ITアウトソーシング事業」を展開しています。



NEW MEMBERS
新会員のご紹介

JCSSAよりお知らせ

●平成23年度新入社員セミナー

開催日時：2011年4月19日(火)

14:00~16:30

場 所：文京シビックホール 大ホール
(文京区春日1-16-21)

●4月度定例セミナー

「進化し続けるスマートフォンが実現する ビジネス変革」

開催日時：2011年4月20日(水)

16:00~17:30

場 所：リコージャパン株式会社 本社7階
(中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング)

●3月度定例セミナー（延期開催）

「中国との関わりを考える。あなたはどのようにしますか？」

※3月開催予定で延期となっておりますが、

下記日程で開催いたします。

開催日時：2011年5月25日（水）

16:00~17:30

場 所：日本事務器株式会社 本社
(渋谷区本町3-12-1)

住友不動産西新宿ビル6号館)

●平成23年度通常総会・サマーセミナー・懇親会

開催日時：2011年6月9日(木)

14:00~18:30

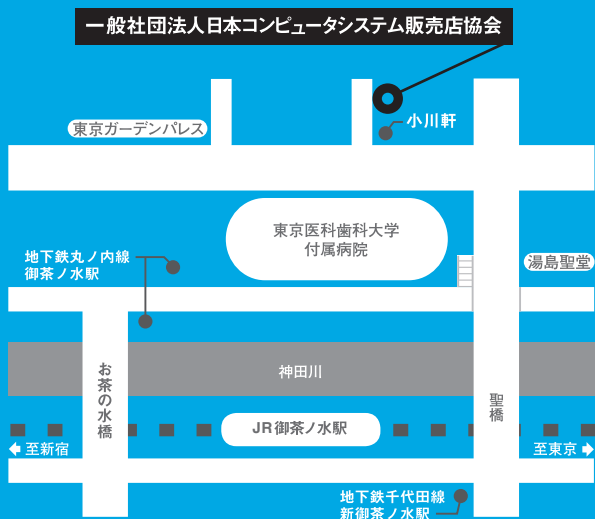
場 所：帝国ホテル 本館3階 扇の間・富士の間
(千代田区内幸町1-1-1)

●トップエグゼクティブセミナー

開催日時：2011年7月20日（水）

15:00~18:20

場 所：ホテルメトロポリタンエドモント
(千代田区飯田橋3-10-8)



〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-4 鳴原ビル2F

電話：03-5802-3198 FAX：03-5802-0743

URL : www.jcssa.or.jp E-mail : jimu5802@jcssa.or.jp